



# 開校準備だより

令和8年6月発行

令和9年4月の開校に向けて、保護者や区長、学校関係者などで構成する学校再編準備委員会による検討状況などをお知らせしてまいります。

## 1 校歌が完成しました

干潟地域の児童・生徒や保護者の方を対象に、ひかた椿小学校の校歌に入れたい単語やフレーズを令和7年2月1日～28日の期間に募集し、90名の方から応募がありました。

応募が多かったのは「八万石」や「椿の海」などの地域に関連する言葉や、「ひかり」「夢」「希望にあふれる」などの未来に関連する言葉でした。

応募のあった単語やフレーズを基に、前中和小学校校長の水須三樹先生を中心に、準備委員会で歌詞を作成しました。この歌詞は、応募してくれた90名みんなで作り上げたという意味も込めて、作詞者名を「校歌制作委員会」としました。

作曲は、旭市出身で、市民吹奏楽団「光ウインドオーケストラ」の音楽監督兼指揮者としても活躍されている佐藤博さんをお願いしました。

### ひかた椿小学校 校歌

作詞 校歌制作委員会  
監修 水須 三樹  
作曲 佐藤 博

一 ひかり輝く 旭の地

椿の海を 照らす陽は

ひかた椿の ぼくたちは

優しく強く 包んでる

未来に向かって 手をひろげ

つかめ命を 魂を

二 同じ教室 学び合う

かけがえない日々 宝もの

ひかた椿の ぼくたちは

希望にあふれ 歩んでる

夢に向かって しなやかに

つかめ命を 魂を

一步を踏み出す ぼくたちの心

八万石の稲穂にのせて

未来に向かって 手をひろげ

つかめ命を 魂を

### 歌詞に込められた想い

中和・萬歳・古城の子供たちは、総じて穏やかな気質であり、明るく素直、真面目であるが、協調性が強いあまり、自主性・主体性が弱いという面がある。そのため、この先の人生を「強く生きてほしい」「自分の手で人生をつかみ取ってほしい」という強い想い、願いを「つかめ命を魂を」というフレーズに込めている。また、子供たちがふるさとの風景を思い描きながら歌うことができるよう、干潟地域の風景を歌詞に織り交ぜている。

## 2 学校跡地活用について検討しました

中和小学校と萬歳小学校の跡地活用については、昨年度より準備委員会において、地域として望ましいと考える活用案について話し合いを重ねてきました。検討結果は下記のとおりです。

今後、実際の利活用については、準備委員会の検討結果を参考にしながら、市で改めて検討していくことになります。

### 学校跡地活用に関する検討結果

中和小学校及び萬歳小学校は、地域との関わりも深く、住民の学び、スポーツ活動等の場として、地域の核となってきた施設であり、住民にとっては地域コミュニティを支える中心的な場所でもある。学校がこのような役割や機能を担ってきたという経緯を踏まえ、閉校後の跡地について、どのような活用が望ましいのか検討してきた。具体的な活用案は以下の4案。

#### ①子供たちが集まれる場

干潟地域には子供たちが集まれるような場所がないため、公園や児童館などの子供たちが遊べる施設があれば子育ての充実に繋がり、若者の地域外への流出を防ぐことが期待できる。

#### ②農業を活かした施設（芋ほり等の農業体験、地元農産物の販売や飲食店）

農業が盛んな地域なので、農業を活かした施設や農業体験ができる場にすれば、他地域からの来訪者を増やすことが期待できる。

#### ③スポーツ施設（フットサル、テニスコート、プール、ジム、レンタルスタジオ）

どのように活用をしても当初は多くの人が集まるが、徐々に減少していくことが想定される中で、スポーツ施設であれば一定の需要があるため、安定した利用が期待できる。

#### ④東総運動場と連携した宿泊施設

東総運動場が近くにあるという強みを生かし、校舎を合宿所や宿泊施設にすれば、東総運動場を利用する市外の利用客が期待できる。

※これらの活用案は準備委員会での意見であり、実際の活用案ではありません

### その他要望等

- ・今後、他地域でも学校再編が進んでいく中で、中和小・萬歳小の跡地活用を後回しにしないほしい。
- ・学校の名残りをとどめるためにも、なるべく校舎の形を生かした利用をしてほしい。
- ・萬歳小の体育館は地域の避難所やコミュニティ施設として残してほしい。
- ・土砂災害警戒区域を十分考慮した上で検討してほしい。



学校再編ホームページ



過去の開校準備だより



古城小の工事進捗状況



【お問い合わせ先】 旭市教育委員会教育総務課学校再編室

TEL:0479-85-8614 FAX:0479-62-5855

Email:kyo-saihen@city.asahi.lg.jp